
「今はもう気にしてないのよ。」

そこぬけ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「今はもう気にしてないのよ。」

【コード】

N5219F

【作者名】

そこぬけ。

【あらすじ】

ダメな夫に彼女は言う。「今はもう気にしてないのよ。」と。

「今はもう気にしてないのよ。」
彼女は夫である彼に言った。

すでに時計の針は夜の2時を指し、
11月の中旬だからだろうか、肌に刺さるような寒い夜だった。

「あなたと初めて会ったとき、運命だと思ったわ。
よく言うでしょ、初恋は体に電流が流れるって。

私がそうだったの、初恋でもあったのよ。
あなたと結婚できて心の底から幸せだと思ったの。

だから、あの時は本当に傷ついたわ。

あなたが知らない女と一緒にいて・・・路上でキスなんてして・・・
誤解しないで、あなたを責めたいわけじゃないのよ。
私にも至らないところがあつたと思うの。

だから、あなたがあの女とキスをしたことを責めたいわけじゃない
し、

ホテルから出てきたことも怒ってないわ。本当よ。
私が積極的に夫婦の営みをすれば良かったのよね。

あなたは酒癖が悪くて、いつも酔って私を殴ったり、蹴ったり・・・
。そのあとで謝って・・・でも、お酒を辞めるつもりはなくて・・・
。そんな日は枕を涙で濡らしたの、知らなかったでしょ。

しかたないわよね。

あなたって私の気持ち、少しも理解しようとしなかったもの。
私の考えてること、感じてること、やるうとしてること……何一
つ。

本当に……馬鹿な男。」

彼女はそう言うと、右手で彼の顔を優しくなでた。

彼女の手には、彼の体温は感じられなかった。

「今はもう気にしてないのよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5219f/>

「今はもう気にしてないのよ。」

2011年1月27日01時14分発行